

年頭所感 令和 8 年「総合目標」

社会医療法人青雲会 川井田 浩 理事長

[理事長挨拶をそのまま複製]

(文責:総務部長畠中)

新年おめでとうございます。今年も皆さんにとっていい年でありますように。そして私も皆さんがしっかり頑張れるような環境を作りたいと思っています。

この年末年始に聞いた話。鹿児島県の少子化は大変進んでいるという話を聞きました。まず高等学校に入ってくる人数が極端に減ったそうです。霧島高校は、栗野工業高校と牧園高校が合併してできた高校だそうですが、1 クラス 20 数名だそうです。ある看護学校は、2028 年 3 月で閉鎖。それから、大隅半島はもっと悲惨で、高校の入学定員をほとんど割っているのだそうです。鹿屋高校だけがなんとか定員に達しているようです。阿久根、出水方面も、定員に満たないとのこと。鹿児島市だけが、ある程度埋まっているようです。

そういう現状ですから、少子化の影響が今から 4、5 年後にはかなり出てくるのではないかと考えています。鹿児島の高校で勉強しても、ほとんどの学生が中央に行きますね。それで鹿児島に残る人が少ない。こういう現状ですから、医療界に入る人もますます減っていくのだろうなということ、話を聞きながら思いました。

それから建築業界も大変だそうです。今、種子島に自衛隊基地を造っていますが、そちらにほとんどの建築業者が取られていって、それ以外に残っている人が非常に少ない様です。

設計会社によりますと、建物を設計して募集をかけても、応募してくる業者がほとんどいないそうです。例えば A という建築会社に造ってくれないかと頼んで値段を提示すると、これでは受けられないと断られる。昔は

1つ応募を頼むと 10 社とか 20 社の業者が応募していたそうですが、今は人がいない事と建築資材の高騰、それから型枠大工の高齢化で建築業界も厳しいとの事でした。

この病院を造るときは、確か建築の坪単価が 68 万円でした。ところが、今、鉄筋コンクリートは 210 万円を超えているのだそうです。3 倍以上。木造建築が 30 万円ぐらいでできていたのが今 100 万円を超えているとのこと。このような現状で、建築業界も経営が難しいようです。

ですから、これからは、相当、少子化の波が来るだろうなと覚悟しているところです。本日こうしてたくさんの人にこの会場に集まっていますが、これから 5 年 10 年先はポツンポツンとなるのじゃないかという懸念を持っています。

それでは、本題に入ります。

この地に「何か世の為 人の為」救急医療をやるんだという思いで創業してから早や 45 年が経過しました。そして青雲会はこの地になくてはならない組織であると評価され、信頼を勝ち得てまいりました。これこそが、皆さんの努力のお陰であると感謝しております。

この組織をさらによりよく運営するためには、皆さんの協力なくしては成し得ません。そのためには皆さんは、同僚を大切な仲間として尊重しお互いへの配慮を重視し、お互いが支えあっているという事を忘れてはなりません。

このことにより、「皆さんと、青雲会で仕事が出来て良かった。人に喜ばれ感謝され、人の役に立つ仕事に従事出来て幸せである。」と思って貰える組織にしましょう。

このような気持ちがないと、組織は 10 年 20 年続いていきません。とにかくお互いが仲間であるという気持ちを持たないと、その組織は崩壊していきます。ですから、この少子化の時代には、みんなが、誇りを持つ

て、そして仲良くする、そういう組織にしていだきたいと思います。どんどん人がいなくなる時代がもうすぐ目の前にやってきそうな気がします。

先人の言葉で、私もそうだと思ってきたことがらを紹介します。

①「わずかなことに満足できない者は、何にも満足することはない。」

これはエピクロスという哲学者です。ギリシャの哲学はソクラテスから始まり、ソクラテスっていうのは、「知を愛するフィロソフィア」ソフィアというのが知、フィロが愛する。知を愛するということと、「知らないということを知っている」という有名な言葉を皆に投げかけています。そこからソクラテスの哲学が始まり、その次にプラトン、それからアリストテレス。この人たちは精神、宇宙、それから社会といった方向に目を向けている一派です。それからもう 1 つは庭園派。これは、エピクロスという人。この人は「生きているからには快樂を追い求めよ。」快樂っていうのは、楽しいことをしよう。人の役に立つことをしようというそういう考え方。それからもう 1 つは犬儒派です。犬のように質素に暮らそうという考え方。その質素に暮らそうという犬儒派からは今度はストア派に分かれていったという、そういういきさつがあるようです。

それで、この「わずかなことに満足できないものは何にも満足することはない。」この庭園派のこの人の言っていることは、紀元前 400 年ぐらい前に、中国でも似たようなこと言っている人がいますね。老子です。「足るを知るものは富む」と。要するに満足することができる人は心豊かであるという発想を打ち出し、そして老子の考え方が道教という宗教に変わっていった様です。

そして、中国での三大宗教は、仏教、儒教、道教、この 3 つになっているようで、仏教は釈迦を開祖とし、輪廻転生（死後に新しい生命に生まれ変わる）心の調和を重んじる。儒教は孔子を開祖とし、招魂再生。魂が死んでから彷徨っているけれども、そのうちまた人間に生まれ変わる、

そういう発想なのだそうです。道教の開祖は老子。基本理念は不老長生。要するに自然に親しむ事で我々は長生き出来るのだから欲張るなという発想ですね。この人が「満足することを知るものは富む」ということを言っています。徳川家康も、「足ることを知って足るものは全て足る」ということを座右の銘にしているそうです。しかし中国では、文化大革命で三大宗教は衰退していきました。

犬儒派にディオゲネスという人がいて、この人は樽の中で生活していたのだそうです。なんで樽の中で生活しているかというと、全ての欲望を捨てて、とにかくもう自分の生きたいように生きるという、そういう考えで生きていたのだそうです。今で言えばホームレスです。その当時、このホームレスの考え方は、非常に珍しかったのでしょうか。で、マケドニアのアレクサンダーという大王、バルカン半島、ペルシャ、エジプト、もちろんギリシャ、それからインドまで攻め登って、最後インドで病没したアレクサンダー大王、この人がディオゲネスのところに来て、お前に何でも好きなものを取らせると言ったら、樽の中から「あんたがいるだけで、日が当たらない。そこどいてくれ」と言ったのだそうです。要するにそれほど質素に生きようというのが犬儒派です。で、この犬儒派の中からストア派が分裂していった。で、ストア派は徳を愛する。人の役に立つために行動しようという考え方です。エピクロス派(庭園派)というのは、快樂を求めるといことで、ストア派とエピクロス派(庭園派)は、犬猿の中だということを知りました。哲学の流れが色々あるようですね。だけど基本的には、結局人の役に立つということが全部モチーフになっているようです。

②「信念を失うよりも成功を失う方が良い。」セネカ

この人は、古代ローマ帝国のネロという皇帝に仕えていたんですが、結局、最後は、「お前は俺の言った通りに書物を書け」と言われて、「そんな嘘は書けない」と言ったら、自決を命じられて、死んでしまった。信念

を失うより死を選んだという人ですね。

これは、現代においても、富士フイルムという会社があります。この富士フイルムは、今から 20 数年前に中国に進出して、800 億円の収入を毎年得ていたのだそうです。ところが中国が、その確信技術、半導体を作るためには、富士フイルムの、露光技術、その他がどうしても核になる技術だったのだそうで、それを技術開示しろと言ったのだそうです。そしたら、企業ですから、収入を得ないといけないから、800 億円を捨てるか、撤退するか、どちらかの選択を迫られたわけで、その時に、取締役会では、やはり 800 億円を取ろうという発想に傾いたのだそうです。そしたらその時の社長が、そのようにしたら、日本の国は滅びる、絶対にやらないという事で、東南アジア(ベトナム、インド、インドネシア)に移転したのだそうです。なぜそういう事をしたかと言うと、半導体というのは、産業の米であると言われています。それで、武器、要するにミサイル、航空、宇宙、それから自動車、電化製品、製造、すべてのものをコントロールするものです。その半導体技術を渡したら、必ず中国は日本にミサイルを撃ってきて、日本はもう勝つことはできない。中国の属国になる。そのくらいなら 800 億円捨てても良いという事でその技術を渡さなかったということです。それがきっかけで、ソニー、それからキャノン、三菱自動車、日産、トヨタ、そういった会社が次々と撤退、縮小を表明しているのだそうです。だから今中国は大変な経済不況に陥っている。ソニーが止めただけで 30 万人の失業者が出たという話ですから、すごいですよね。そのきっかけは、富士フイルム。だから富士フイルムの社長って偉いなと思っています。信念を失うよりも成功を失う方が良い。まさに言葉のとおりですね。

だから青雲会も、今「人の為に役に立つ組織」という信念を失ったらその存在価値は無くなりますね。ですから皆さんも、とにかく自分たちは人の役に立っているのだということを是非認識して、それを忘れないよう

にしていきたいと思います。

③「一度も不幸な目に遭わなかった者ほど不幸な者はいない。」

デミトリオス

この人はキュニスコス派。キュニスコス派は犬儒派と一緒に、この人は、「何でもかんでも成功している人は、いざ大変な局面になった時はその判断を間違える」ということを言っているわけですが、ピータードラッカーというアメリカの経済学者、この人もそんなようなことを言っていますね。要するに、一度も失敗したことのない人をリーダーに選んだらダメだということ。全て順調に行くということで大きな間違いを犯す可能性があるということ。だから皆さんは、嫌なことがあった時は、これは天が与えた試練だと思って、ニコニコして乗り越えていいただきたい。そういうことを言っているわけです。

④「自分で自分を幸福と思える人こそ幸福である。」

この小さなことでも、幸せと思えるような精神状態に是非なっていきたい。もう小さなことでも不満ばかり言っていたら、世の中通用しませんね。何でもいいから、「これ良かったな、幸せだな」と思えるような、そういう心を磨いていただきたい。

このように、私たちを鼓吹する多くの表現がありますが、イタリア語ではメント・ホモ（汝、人間である事を忘れるな）。お前、たかが人間じゃないかという言葉。これは、要するに「人として生まれて、いつか死ぬんだから、その間、良いことをしなさいよ。」という意味です。これはストア派の典型的なもののいい方ですね。

シモーヌ・ド・ボーヴォワールというフランスの女流作家がいます。この人は、ジャンポールサルトルというノーベル文学賞をもらわないと拒否した哲学者ですけど、そのパートナーだったようで、この人の本の中に「老い」

という著書があります。それには、「人は蝶のように生まれて、蝶のように育ち、そして、毛虫のように死んでいく」と。要するに年取って老いさらばえていく。だから、その蝶の時代を充実させろということを言っているわけですが、なかなかその蝶の時代は、いつまでもこれが続くと思ってしまっていて、そういうことを忘れてしまいますね。いつかはそういう老いさらばえる時代が来るのだということを、皆さんも頭に入れておいてください。

こういう色々な人の話を紹介しましたが、興味があったら本を読んでください。

我々は人の役に立つために生まれてきており、ただ生きるのではなく、いかに良く生きるか(これはソクラテスです。)が、満ち足りた人生であるという気持ちを持ち、ナイキのスローガンのとおり、世の為人の為に、Just Do It、とにかくやろう。今年もみんなで頑張りましょう。

総合目標

同僚を大切な仲間として尊重しよう

青雲会に勤務して幸せであるという仕事をし、

明るい職場を作ろう

人の役に立つための仕事をしている事で

人生を満ち足りたものにしよう

とにかくやろう(Just Do It)

これが今年の総合目標です。

今年もよろしくお願いします。